

北海道教職稲門会報

発行
北海道教職稲門会
事務局
会報担当 田畑緩己



水随二方円ノ器ニ

第七代会長 和角 一

(北海道有明高等学校校長・31年教卒)

早稲田を卒業した時、教育学部長の竹野教授から、思いがけず記念の「色紙」を戴いた。「和角君、教師として新しい出発をする君にこの意味を深く味わってほしいと思つてね。」そこには、黒痕あざやかに、一水随方円器と揮毫されてあった。

荀子の君道に基づく有名な言葉なので、大体の意味は承知していたが、改めて辞書を開いてみた。「水は方円の器に随ふ」※水には固有の形が無く、容器の形によってその形を変える。①人民の善悪は、君主の善悪によって左右されることの例え。②人間は、友人、環境などによって変化することの例え。と解説されたのである。

なるほど、生徒は水なのだ。教師の器(人格、力量、指導法)によって、四角くもなれば丸くもなる。教師の日常の姿勢と情熱が、生徒を善くもすれば悪くもする。また、青年期に、よき友情を育むことが如何に大切であるかはいうまでもない。教師の姿勢や教育環境の充実が、生徒の豊かな人間生の育成に不可欠の大事であることを

示唆して下さったのだ。本当に素晴らしい餞を戴いたと今でも深く感謝している。

ところで、最近また、私はこの言葉にこだわっている。前述の②について(人間は環境により変化する)、この一見受動的な表現をどう考えるか、である。全くの自己

流で解釈をすれば、私は、むしろ能動的、行動派人間になることを表わしていると思われてならない。即ち、「水」は人を指し、有為転変して止まぬ(科学、技術の進展など)社会「方円」にあって、その時々々の時勢や情況「器」に、適切に対応できる幅広い人間像を期待しているのではないかと。

偏狹で視野の狭い人間では、この変化の激しい社会にあって、重大な場面での正しい認識、判断は極めて難しい。如何なる環境や条件の中でも、その当面する現実を受容しつつ、過りなく、しかも、積極的、主体的に行動できる人間でなければならぬ。そのためには、日々研修に励み、自己の修養を積む不断の努力が必要前提となる。この裏付けなしの、安易な思考や判断は、

第13回総会懇親会 —新会長に和角一氏—

東急インにて

第13回「北海道教職稲門会総会・懇親会」が平成三年一月九日、札幌市中央区の東急インで開催された。今回の会合で特記されることは、北海道教職員稲門会の設立に尽力され、現在まで強力に支えてくれた室田浩志氏(有明高校長)、竹本義明氏(小樽潮陵高校長)、手塚要助氏(旭川東高校長)の三人が平成二年度をもって御勇退することになった。今後の御活躍を祈念すると同時に、特別会員として、末ながく御指導をたまわりたい。総会・懇親会は井村美彦氏の軽妙な司会で始まり、一、幹事長挨拶 佐々木隆幸氏(興部高教頭) 佐々木氏から三浦保美氏(札幌南高)への幹事長引継ぎが提案された。二、会長挨拶 室田浩志氏(有明高校長)、三、特別会員挨拶 佐藤勇氏(第一代会長)、四、新会長選出 室田校長から新会長として和角一氏が提案された。五、新会長

極めて危険であるし、その時々々の情況に巧みに便乗し、ただ要領よく我が身を処する小人に墜ちてしまふに違いない。

人間は、年齢に応じて、自然に多くの体験を積み、幅もできてくるといわれるが、小生、教師定年間近かとも未熟であることを恥じるばかりである。

大隈で東京の折りには、よく母校を訪れる。校務講堂のチャイムを背に、大隈公の銅像を仰いでいると、威厳のある竹野教授のお顔が重なってくる。その時の私は、完全に四十年前の早大生なのである。

挨拶 和角一氏(岩見沢東高校長)。六、感謝状・記念品贈呈 新会長から室田校長へ。七、会計決算報告 中塚信義氏(札幌新川高)。記念写真撮影をして、八、開宴 乾杯 五十嵐弘氏(旭川北高校長)。美酒を飲み交し宴がもりあがったところで竹本義明校長と手塚要助校長からスピーチをいただいた。御一人の言葉を聞いてここまで努力されたその精神力に拍手を禁じ得ない。宴が最高潮に達したとき、「紺碧の空」に続いて、「都の西北」を肩を組み、歌った。佐藤昌弘氏(札幌新川高)のバスケット部直伝のリードも盛り上げるのに役立った。九、万歳三唱 平田裕一(札幌手稲高)。十、閉宴乾杯 松田豊満(訓育府高校長)。七時近くに次回の再会を誓って散会した。

△出席者▽ (特別会員) 佐藤勇、伊藤詰男(会員) 石井信幸、五十嵐弘、伊藤芳明、稲富弘隆、井村美彦、植松寛寛、及川研一郎、大東俊郎、小笠原英俊、岡元賢、小野倫夫、加賀博、小島晶夫、佐々木隆幸、佐藤佳明、佐藤昌弘、佐藤昌文、澤井泉、庄司悌一、菅原雅之、高品孝之、竹本義明、武部文吉、田畑緩己、千葉博昭、手塚要助、中川敏春、中塚信義、永田政允、新野健、西武士、西藤彰悟、原山勉、平田裕一、星充弘、細田誠、前川洋、増田雅彦、松田豊満、三沢誠一郎、三浦保美、水谷哲則、室田浩志、森修一、山内秋夫、山形恒則、萬信昭、和角一。(敬称略・あいうえお順) 尚、平成3年度の教職稲門会幹事は次のとおり。

幹事長 三浦 保美 札南高(英語)
幹事 中塚 信義 新川高(英語)
" 大塚誠之助 東豊高(社会)
" 細田 誠 札北高(社会)
" 井村 美彦 真栄高(社会)
" 平田 裕一 手稲高(国語)
" 水谷 哲彦 札東高(英語)
" 中川 勝 " (社会)
" 佐藤 佳明 " (国語)
" 石井 信幸 札南高(英語)
" 及川研一郎 " (国語)

△事務局V札幌南高校内(011-531-3111)
母校から寺田文行氏
(理工学部教授) 来札!

高教研数学部会で講演のために来られた折りに、教職稲門会に出席して母校の話をさせていただきます。

校友だより

社会の中の学校のあり方が問われる時代だ。校内論議だけでは教育を語りつくせない。そこで校友諸兄よ、校友会に出かけよう。全道各地に校友会があり、活発な活動が行なわれている。札幌では早慶合同懇親会のオマケつきだ。酒をくみかわしながら様々な舞台上活躍している校友と語れば、教育の新しい視点が見えてくる。酔いにかかせてケンカをしても所詮はワセタの兄弟ゲンカの中だ。教育の原点は学校の中にあらず、社会の中にあり。校友会への参加を通して北海道の教育に新しい風を呼び込もう。

(札幌真栄高・井村美彦・51年教卒)

新任指導主事の雑感

(宗谷教育局高等学校教育指導班 指導主事・48年教卒)

吉澤正伸

早いもので、最北の地、稚内へ赴任して九ヶ月が経過いたしました。春の遅い宗谷で寒風に吹かれながら「さて、これからどんな事になるのやら」と柄にもなく心細い思いをしたのがつい先日のように思われます。おかげさまで、明るい雰囲気職場で心暖かい上司の御指導のもと、皆様に支えられながら毎日生活を過ごしております。家族もすっかり稚内の生活に慣れ我が家の

モットーである「住めば都」を子供達もそんなり受け入れてくれ、親としては安心しております。

三月までとの違いは、先ず生徒がいないこと、授業がないので勤務時間のリズムがないこと、全身からの汗でなく(教科は保健体育です)脇の下の冷汗だけである等ありますが、私にとって取り組む事全てが未知の事であり、諸先輩方との出会い等、毎日自分が新鮮な刺激に満ちあふれております。自分を見失わないように、与えられた仕事をこなすことが精一杯の状態から、牛歩のごとくですが、主催事業を任せていただき、無事終了できた時の満足感を味わうことができるようになりました。

ところで、私は「力必達」(つとめればかならずたつ)という言葉に観ずるところがあり、生徒指導の際にも、また私自

この四月、単位制課程開設と同時に北広島高校から転動しました。生徒は、自由に学びたい科目を選んで、自分で手作りの時間割を作って学習します。服装も自由、上靴に履き替える必要もなく、出欠もコンピュータ管理でいちいち取りません。何もかもが新しいシステムで戸惑いも隠しきれませんが、生徒の自己管理能力の育成、90分授業の展開の仕方を当面の課題として日夜奮闘している近況であります。

(有朋高単位制課程・岡元 賢・50年教卒)

夢のような大学生生活を終えて北海道に戻ってきたのが11年前。以来湧別高校を皮ぎりに、冬には流水が海を覆うという厳しい自然環境のもとで道東の教育にたずさわって

身が何か事にあたる時にいつも心の中でこの言葉を繰り返しておりました。講道館柔道の嘉納治五郎師範の好んで使われた言葉で、一生懸命に努力を続ければ必ず目標を達成することができる、そのための努力を惜しんではならない、という意味が込められています。四月からは前記の様に生活も変わり不安もありました、これからも様々なことが待ち受けていることと思いますが、ともかく精一杯頑張ること、これが現在の自分に与えられた使命と考えております。これから経験させていただくこと全てを糧とし、指導主事として、そして人間的にも成長していきたいと考えております。



きました。現在は2校目の紋別北高校に勤務しております。実はこの地では、30才を超えると中堅と目されてしまいます。従って新米教員の頃は毎年のように大学の研究室に通い、実験材料等調達してきたのですが、最近が多忙の中ですかかりと早稲田とも御無沙汰している状況です。近々研究室に向い最近の話題等ゆっくりに伺いたいと思うこの頃です。

さて、私事になりますが今年4月19日にかけてNHKラジオの『北海道の皆さん』という番組中の自然情報を担当致しましたが、毎週1回、わずか5分程度の放送でしたが、現地調査等けっこうたいへんでした。でもよい勉強をさせていただきました。

(紋別北高・小島晶夫・56年教卒)

室蘭に来て四年目になりました。来た時は校長先生始め6人だった校友も、今年は三人になりました。少々淋しくはなりましたが、新校舎完成とともに、今までの教科別職員室から大職員室になったので、却って話をする機会は増えたといえるかもしれません。二年生の担任として、そろそろ進路指導などしていますが、時折、「先生の後輩になるよう頑張るから。」などという生徒がいたりして、精一杯のご機嫌とりはわかっている、つい頬が緩んでしまい、苦笑いしているこの頃です。

(室蘭栄高・成田智子・53年専卒)



- ◀早稲田大学
校友会支部・地域稲門会一覧▶
- 札幌校友会
〒064 札幌市中央区南 9 条西 5 丁目
長谷川ビル内 TEL 011-521-0024
 - 旭川校友会
〒070 旭川市 4 条通 3 丁目右 1 号
懶生組組内 TEL 0166-22-1251
 - 網走校友会
〒093 網走市駒場北 4 - 9
菅原久方 TEL 0152-43-6508
 - 岩内校友会
〒045 岩内町字高台 288 番地
石山商店内 TEL 0135-62-1147

- ホーク新聞社内 TEL 0157-25-1235
- 釧路稲門会
〒085 釧路市栄町 2 - 6
釧路パシフィックホテル
山本秋介 TEL 0154-24-8811
 - 苫小牧稲門会
〒095-13 苫小牧市晴見町 28 - 1
松本鉄工所 TEL 0144-55-1155
 - 中空知稲門会
〒073 滝川市大町 2 - 8 - 8
田中管工内 TEL 0125-22-3322
 - 根室校友会
〒087 根室市海岸町 1 - 6
根室無線電機内

- 佐藤隆吉 TEL 01532-3-5221
- 函館校友会
〒040 函館市新川町 23-25 共栄ビル 3F
景澤不動産鑑定事務所 TEL 0138-27-5271
- 室蘭校友会
〒050 室蘭市寿町 1 - 5 - 24
鈴木興産内 TEL 0143-45-6955
- 留萌稲門会
〒070 留萌市栄町 2 丁目
三協石油内 TEL 01644-2-0542
- 稚内校友会
〒097 稚内市中央 3 丁目 9 - 11
懶ヴォーク伊藤豊秋 TEL 0162-22-0001

稲門会を退会して

(北海道立帯広美術館長 28 年理工卒)

室田浩志

教職稲門会の皆さん、お元気に御活躍のことと存じます。「新しい職場での第二の人生」というテーマをいただきましたが、私としては、「退職後の人生と悲哀」という方が書き易いような気がいたします。教職を退くとき「頂門の一針」という所感集に次のような一文を書きました。

「私は、今まで若い人に口癖のように、背伸びをして生きなさい。そのうち、いつの間にか、それが自分の背丈になっているもんなんです」と言ってきました。しかし、今退職を迎え、静かに振り返ってみると背伸びをして生きてきた苦悩の一向に背丈は伸びていないことに気付いた。私の仮設は誤りであったようです。」

四月に美術館に勤務して間もなく市の文化関係者から「近く美術についてのフォーラムがあるので美術の講演を願いたい」との電話。「私、全くの素人なので」と言うや否や「背伸びをして、少々はったりで

もやっていたら、そのうち慣れますよ」との声が返ってきました。一瞬、啞然としました。一か月前に先非を悔いたばかりなのに。私の頭の中のゼンマイは容易に巻き戻すことはできませんでした。

思えば、早稲田を出て、会社で代用教員、高校教員、校長と三十数年、確たる自分も持たず時流のまま生きてきた私の人生を振り返り、しかも最後の土壇場でまた不安定な状況にあること、大変恥しく思っております。

「第二の人生」とは、周囲の人達が退職した人生を勇気づけることばであるか、さもなければ自分に鞭打って自らを振るい立

職場には定年があっても、人生には定年などあり得ない。常に、夢高き、充実した人生を送りたい……それが心身ともに健康な状態でニューティフル・エージング、豊かな長寿へと自然に移行する秘訣なりと確信しています。ですから、自称「万年青年」いや「新青年」が定年退職を迎えても、その後は無為無職で荏苒と生活を営む意志などハナから皆無

後悔なしのシルバー・エージング

青山工芸専門学校札幌校校長

竹本義明(31年教卒)

私は天の配利からか、鹿野光雄理事長(遠別町出身)と面会する機会に恵まれました。私は初対面にもかかわらず、理事長の大きな雅量、豊かな器量そして懐の奥行きに完全に魅せられてしまいました。さらに、教育や事業にかけける情熱やビジョン、その意嚮等を纏々傾聴するにおよび、その素晴らしい先見の明、後見性、深見性そして卓越した識見に一驚。この理事

長にならば私のシルバー・エージングを託していただきます。今日一日の義務を果たしても何もならない。今日一日の義務を果たしても豊かに生きればそれでよい……」

心おだやかに、一日一日を送りたいと思うこのごろです。

しても後悔せずの心境に達し、阿吽の呼吸で「学校法人北海道鹿野光芸専門学校青山工芸専門学校札幌校」の校長が誕生した。まさに、人生意気に感じるのさわやかな気分でした。

お陰様で、現在は道立高校時代に体得したものを私学化し、体験学としての自己流教頭学や校長学を専門学校向けに味つけし学校経営、教育経営に全知全能を投入中です。相変わらず多事多忙ですが、私学ならではのリベラルな面も多々ありますので、楽しく一生懸命に頑張っています。一事に専念、情熱を燃焼させていれば人はだれでも清く美しい心になれますので、その意味でも私も目下、男の美学を藁進中です。道立高校時代に得たものすべてを、燦銀のきらめきと化して私学教育という名の大樹が美しく結実開花するように熱中しています。

平成 3 年度教職員

異動に伴う校友の動向

(3月末現在)

校長

有朋 (岩見沢東) 和角 一郎

函館西 (函館東) 三沢誠一郎

教頭

札幌福北 (岩見沢緑陵) 大東 俊郎

有朋 (小樽汐陵) 原山 勉

浦幌 (苫小牧南) 久保田 攻

白老東 (釧路教育局) 新野 健

教諭

有朋 (札幌白石) 武部 文吉

(北広島) 岡元 賢

(江差) 田畑 緩己

岩見沢東 (士別) 坪川 泰嗣

帯広柏葉 (釧路湖陵) 中川 敏春

音更 (札幌南) 及川研一郎

指導主事

北海道立教育研究所庶務部長

(網走教育局) 大場 宏

「趣味はなんですか」と人に聞かれる

時が辛い。家内から、「そんな無趣味では

老後が大変ですよ」と言われるほどだから

見栄も張れないのである。

日頃は帰宅したら炬燵に

入りビールを飲むことの

楽しみはあるものの、こ

れは趣味の領域には入ら

ない。長椅子に横たわり、

ポテトチップをバリバリやりながらテレビ

を観る若者をカウチポテト族と言うそうだ

が、さだめし私はコタツドリंक族と呼ば



私の趣味・余暇

原山 勉

(北海道有朋高等学校教頭・39年教卒)

で気楽である。今年の最大の収穫は、とま
と八本から大小合わせて一四八個の実を口
にできたこと。総量は二十五kgの大豊作で

梅、桜を育ててみたいと思っている。風格
風趣の老い的美を探し求めるためにも。

思わず総理を弁護

田丸武彦

(札幌西陵高校・30年法卒)

10月30日の読売新聞は、前日の首相官邸
中庭でのレセプションの模様を伝えた。

宮沢、海部の新旧総裁がそろって挨拶。

海部首相は、政治改革関連三法案が廃案に
なった責任を痛感している、としたりうえて、

「新総裁には強い指導力を発揮して政治改
革を成し遂げてほしい」と声を張り上げて

隣席の宮沢新総裁に「遺言」。これに対し

て宮沢氏は、政治改革にはアッサリとふれ

ただけ。

問題は、この後につづけた記者のコメン

トにある。

「肩すかしをくらった格好の首相は、乾杯

の後、そそくさと官邸内に引き揚げ、記者

団に「飛ぶ鳥あとを濁さずだ」と一言。

「立つ鳥」を「飛ぶ鳥」と言い間違っただけ

たり、よほどガックリきた？」

この記事をみて、思わず総理を弁護した

あった。カポチャも作った。発見したこと

は、カポチャは葉の陰の花に実を結ぶこと

がわかったこと。人と言えば、控えめな言

動に幸運を呼ぶ教えのよう

な気がして、一つ学んだ。

それにもう一つ庭木に興味

を持ってきたことがあけら

れようか。木には老醜はな

いから、簡単などころから

お知らせ下さい。

(札幌南高・三浦保美まで)

突然に舞い込んできた会報作りの仕事、

どうにか総会の日には配れるようにと準備

をすすめてきました。原稿をお寄せいた

いた方々どうも有難うございました。

なお、事務局からお呼びですが、会員名

簿に残れている校友をご存知の方は大至急

編集後記

昨年、約10年かかえておりました胆石
を切除し、その後しばらく宴席に待るのを
遠慮しておりましたが、来年は校友会に出
席させていただくつもりです。どうぞよろ
しくお願ひ申し上げます。

くなくなったのは、「校友意識」のなせるワザ
であろうか。早速、同社政治部へ一筆啓上
に及んだ次第。
「立つ鳥あとを」という形が多用され
ていますが、「飛ぶ鳥あとを」という形
も立派に諺であることを。ことわざが口承
文芸である以上、種々のバリエーションが
あるのは当然で、地方によっては実際に飛
び発つことが、「飛ぶ」と言っている所もあ
ります。江戸後期の大家「俚言集覧」には
両方の形が収録されていますし、近くは小
学館「故事ことわざ大事典」にも両者がみ
えます。けして間違いではありません。

小生、多年の勉強に一区切をつける意味
で「昨年、「ことわざと人生」(行路社、
京都市)という小書を出しました。幸に学
会でも好評です。ご批判いただけると幸甚。